

# りた 2015年度の展望

岡崎市の人口は平成42年まで増加する予測が示されていますが、生産人口(15歳以上65歳未満)はすでに5年前から減少に転じています。高齢者(65歳以上)の割合は年々増えていき、中山間地のみならず、今や市街地の康生や東岡崎近辺の中心地でもその傾向は顕著です。大型ショッピングセンターやスーパーなどの商業集積が進む一方で、徒歩圏内の商店が激減した昨今では、高齢者の買い物難民化も重大な地域課題となっています。

こうした社会構造の変化により、福祉、教育、雇用など、様々な問題が複雑に絡み合って進行し、今や“課題先進国”と呼ばれる我が国において、先鋭化する地域課題を解決するには、行政、市民、事業者が手を取り合い一丸となって対応していかなければなりません。

2015年度もりたは、市民活動・地域活動を促進する中間支援者として、地域資源の発掘および新たな担い手の育成、既存の担い手とのマッチングなどを通じて、山積する地域課題に対して、限りある地域資源や人材を適切にマネジメントし、岡崎市の健全な都市・地域経営に資する活動を促進していきます。

上記の目標を達成するため、引き続き4つの主要ミッションと以下の4つの方針に基づき事業を実施します。具体的な事業は次号以降でご紹介していきます。

なお、これまで事務局内に設置していた「まち育て推進グループ」を「まち育て推進チーム」に格上げし、人材補強を行い、今年度以降まち育てに関する先進的な事業展開を図ります。

## 特集： 2014年度のりた

2014年度の「りた」は市民活動・地域活動を促進する中間支援者として、地域ニーズとシーズを結び付けていく「社会の紐帯づくり」を目指しました。

その実現に向けて、市民・市民団体、行政、事業者がそれぞれの強みを生かして連携し、よりよい地域づくりができるよう、担い手発掘や、関係構築を促すために、後述の4つの主要ミッションに基づいた事業をそれぞれ展開しました。

今号では2014年度の年次報告として、りたが岡崎市内で行った様々な取組の内容と、成果を紹介します。

また、2015年度の展望についてもお伝えします。

### りた 4つの事業方針

- 公益活動の場づくり**  
市民の私益・共益的活動など、個々の活動をまちの課題・社会的課題の解決などと結びつけて、公益活動につなげていく場・機会を提供し、やりがいと出番を創出する。
- ボランティアの受け皿づくり**  
「何かやりたい、始めたい」「役に立ちたい」という個人に対するボランティア活動の啓発と、市民活動・地域活動を促進するボランティアのマッチングを行う「ボランティアの受け皿づくり」を進める。
- 学校融合人づくり**  
人々の想いや活動を増幅し、地域の教育機関や専門性を有する団体、個人との協働を促進し、未来のまちづくりの担い手を育成する。
- 学区まちづくり**  
4つの地域交流センター(および市民活動センター)を軸として、地域の課題解決のための活動を支援しながら、地域の資源を活かして、個々の活動やアイデアをまち全体の取り組みにつなげ、学区を単位としてそれらを総動員する地域マネジメントの推進を目指す。

### りた 4つの主要ミッション

- (1) 景観**  
りたは、景観法に定められた「景観整備機構」として、岡崎市内に潜在する地域資源(風景、建物、工芸、ひとの営みなど)を市民自らが再発見ならびに再認識し、わがまち意識を育む。  
該当事業 ▶▶ 百景大撮影会、岡崎百景選定事業ほか
- (2) 防災**  
30年以内に70%の確率で起こるといわれている巨大地震に備えて地域防災力を高めるため、各地域の特性やニーズに応じた防災啓発事業を展開する。  
該当事業 ▶▶ 防災イベント、防災講座ほか
- (3) 福祉**  
まちの更新や少子高齢化に伴う福祉機能の低下に対して、社会福祉協議会、ボランティア連絡協議会、学区福祉委員会など既存の担い手の目的と役割の関係性を整理し、地域の様々な活動と結びつける「ファシリテーター」として、より多くの市民や団体が参加できる地域福祉の在り方を模索する。  
該当事業 ▶▶ 老人クラブ交流会、世代間交流イベントほか
- (4) マッチング**  
様々な地域課題の解決に向けて、市民・市民団体、行政、事業者などの担い手が横断的に協働できるよう、ヒトとヒト、活動と活動、モノとモノ、情報などのつなぎ役「協働コーディネーター」の育成とその体制づくりを行い、市民活動や地域活動の活性化を目指す。  
該当事業 ▶▶ まちびとバンク/もののバンク、市民公募型協働事業、地域活動交流会、まちフェス

# 4つの主要ミッションに基づく りた 2014年度の成果ハイライト

地域ニーズとシーズを結び付けていく「社会の紐帯づくり」のために。

## 景観

●2013年度に「あいちトリエンナーレ2013まちなか拡充展開事業」の一環として実施した「**岡崎百人百景**」が景観まちづくりの啓発に有効であったため、まち育て推進グループが各地域交流センターおよびりた市民活動センターと連携し、「**百景大撮影会**」を実施しました。市内を5つの地区に区分し、各100人計500人がレンズ付きフィルム「写ルンです」で岡崎の魅力を市民の多様な視点で撮り尽くし、各拠点で展示会を開催する企画で、計522組585名が参加し、好評を博しました。

●2016年に市制100周年を迎えるにあたり、次代につなげたい100の景観を、100人の「推薦人」と選定すると共に、将来的な景観まちづくりの担い手の育成につなげていく「**岡崎百景選定事業**」を実施しました。実際に100人の推薦人を集め、特別講師を招いた2回の研修会を開催し、推薦人のモチベーションを高めることができました。

●平成23年から景観まちづくり支援をしている**松本町の取り組み**が、「第1回おかざき景観賞（景観まちづくり部門）」を受賞するなど、岡崎市に指定された「**景観整備機構**」として、景観まちづくりの啓発および担い手の発掘および育成、支援に一定以上の成果を挙げることができました。

## 防災

●全地域交流センターにおいて、それぞれの地域の実情に応じた形で防災啓発事業を開催しました。なごみんでは、地域の婦人自主防災クラブの協力を仰ぎ、学区の防災訓練と性質の異なった「**家族を守るための女性防災講座**」、よりなは、地元町内会と共催という形で防災訓練に重きを置いた「**防災フェア**」、やはぎかんは水害危険区域という地域特性から地元のニーズに応える形で「**やはぎ「防災」講座—水害編—**」、災害タイムラインに沿って心配ごとをイメージし、お互いに行えること・すべきことを話し合い地域防災力を高める「**防災学び合い交流会**」、むらさきかんでは、「**幼児を守る防災**」をテーマに防災講座を実施するなど、各地域の多様なニーズに応える形でそれぞれプログラムを工夫し、防災力の向上を図ることができました。

●岩津支所の「**地域連携事業**」との協働では、昨年度に引き続き、奥殿学区の上奥殿の町内会からの依頼を受け、危険箇所の点検及び防災マップづくりのワークショップを通じて防災啓発を行いました。防災マップ作りを通じた一連の防災啓発のプログラムとして汎用性を高めることができ、平成27年度以降の防災啓発事業に応用できる知見と経験を得ることができました。

## ●まち育ての専門家派遣



学校機関での講義や市内の先進事例の紹介、各種委員会や審議会への助言ならびに政策提言を行い、地域課題に対する複合的解決策の提示を推進しました。

### ●講師・コーディネーターなど

「岡崎インターフェア」審査員(NPOコラボキャンパス三河)／三河ものづくり学(愛知産業大学)／「岡崎市景観シンポジウム」コメンテーター(岡崎市都市計画課)／「コミュニティ工学入門」講師(名古屋工業大学)／「第8回全国校区・小地域福祉活動サミット」講師(第8回全国校区・小地域福祉活動サミットat関西学院大学)実行委員会)／「キャリアデザイン」講師(愛知産業大学)／「第8回まちづくり賞発表会&公開選考会」講師((公社)日本建築士会連合会)／「コミュニティ工学ワークショップ」講師、(名古屋工業大学)／「12月交流会」講師(愛知住まい・まちづくりコンサルタント協議会)／「これからの協働を考えるフォーラム」(愛知県)／「コミュニティ工学フォーラム」講師(名古屋工業大学)／「NPO現場見学バスツアー」講師(豊明市)／「岡崎市松本町、藤川地区まちづくり視察」コーディネーター(町なみ屋なみ研究所(兵庫県丹波篠山市)／「田原市街地まちづくり市民&職員合同勉強会」(田原市)／「現代社会の課題」講演(愛知学泉大学現代マネジメント学部)／「地域円卓会議」ファシリテーター(あいちコミュニティ財団)／「協働ルールブックフォーラム」分科会コーディネーター(愛知県)／「ファンドレイジング研究会」中間支援組織フォーラム(あいちコミュニティ財団)／「協働ロードマップ策定会議～現代アートを通じた地域の魅力づくり～」公開フォーラム全体コーディネーター(愛知県)／愛地球博記念公園マネジメント会議(愛知県)

### ●委員会・審議会など

岡崎市景観審議会／岡崎市総合計画審議会／岡崎市市制100周年事業市民提案型事業検討会／乙川リバーフロント推進部会／岡崎市シティプロモーション推進会議／「NPO実務者会議」委員(愛知県)

## 事務局他

### 組織運営や広報を担い、りたの活動をバックアップ

#### ●まち育てインターンの受入

愛知県、名古屋学院大学、東北工業大学大学院から研修生13名を対象に、インターンプログラムを実施しました。「まちの学習機会」を提供し、受講者のまちづくりリテラシーを高めると同時に地域に役立つまちづくり実践の場を創出しました。また「りた」にとっては、受け入れ担当者が研修プログラムを組むことを通じて人材育成のマネジメントスキル向上の機会にもつながりました。

#### ●りたスタッフ研修

今年度新たに入社したスタッフに対し、中間支援組織の一員としての業務に従事できるよう教育を実施。加えて、近隣他地域のNPOや市民活動センターの視察を行い、それを分析することにより、他のNPOに対しても適切なアドバイスができるよう教育しました。また、3ヶ月に1回、既存スタッフを対象とした「スタッフ交流会」を開催し、市民活動支援拠点の運営ノウハウの共有や改善に努めました。

#### ●市民活動に関する情報発信の仕組み構築事業

「岡崎における市民活動情報の仕組みのあり方」について検討を重ね、本年度はそれを実現するプログラムを他の中間支援組織、システム提供者と共同で開発しました。長年の市民活動情報サイト運営経験から得られた利用者の声を反映し、他地域の中間支援組織のノウハウも盛り込み、りたの強みを活かした市民活動促進のためのマッチングツールを開発中です。2015年10月の運用開始を予定しています。

#### ●りた機関誌「りたらしい」の発行



2014年度からは「りたの見える化」を目標に、各部門の事業内容と成果の報告を中心に発行しました。



5エリア計500人でまちの魅力を撮り尽くした百景大撮影会

## 社会課題の解決とまちへの愛着醸成に向けて

昨年度は岡崎市制施行100周年に向けて市民のまちへの愛着を醸成すべく、「市民の目線」で景観や歴史を顧みる事業を展開しました。また、「空き家」というまちの潜在的財産の活用や、高齢者の暮らしやコミュニティビジネス事業者など、課題解決の担い手支援を行いました。

### ●市制100周年事業検討

景観



平成28年の岡崎市制100周年事業の一環として学区単位で作成する「岡崎まちなものがたり」の紙面構成や情報収集方法などを検討しました。

### ●岡崎百景選定

景観



新時代に継承したい100の景観を選定すべく、100人の推薦人を公募。その推薦人を対象に百景選定に必要な素養を身に付けていただくための研修会を実施しました。

### ●空き店舗活用促進

マッチング



㈱まちづくり岡崎と連携し、康生地区界隈の中心市街地再生をめざし、出展者誘致や全体コーディネートを行いました。

### ●コミュニティビジネス等創出支援

マッチング



ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスの担い手発掘、接点づくりを行い、デザイン活用による顧客拡大を支援しました。

### ●東日本被災者支援

防災

1116人  
455世帯

県内4NPOと愛知県に避難してきた東日本大震災被災者を支援。今年度は全世帯への個別訪問し、個別課題から見える傾向課題の検証と対応策を検討しました。

### ●松本町高齢者のニーズ深堀り調査

福祉



松本町において高齢者と空き家という地域課題をめぐる行政施策と民間の取組みを調査し、「あいちの課題深堀BOOK」にまとめました。

## 福祉

●まち育て推進グループでは、これまで支援してきた松本町で、町内会、民生委員、老人会、地域包括支援センターと連携し「松本町包括ケア会議」を毎月実施。高齢者の生活支援策として6月より会員制弁当屋を創設しました。この取組みが「全国校区・小地域福祉活動サミット」で発表機会を得たり、実施主体の松應寺横丁まちづくり協議会が、日本建築士会連合会主催の「第8回まちづくり賞」を受賞するなど、高い評価を得ました。また、あいちコミュニティ財団の「あいちの課題深堀りファンド」に採択され、「高齢化」と「空き家」の問題の深堀りと、高齢者支援の先進事例調査を通じて、松本町の取組みを発展させることができました。

●むらさきかんで社会福祉協議会、東部地域包括支援センターと連携し、生活困窮者の相談窓口を地域展開する受け皿として、試験的にむらさきかんでの生活相談窓口を設置し、本事業を通じて各機関との連携体制の基盤づくりができました。

●やはぎかんでも地域包括支援センター協力のもと、地域交流センターで定期開催される講座、教室などを介護予防のプログラムとして位置づけ、地域の高齢者に向けて周知を行い、団体の活動を社会課題とのマッチングする基盤ができました。

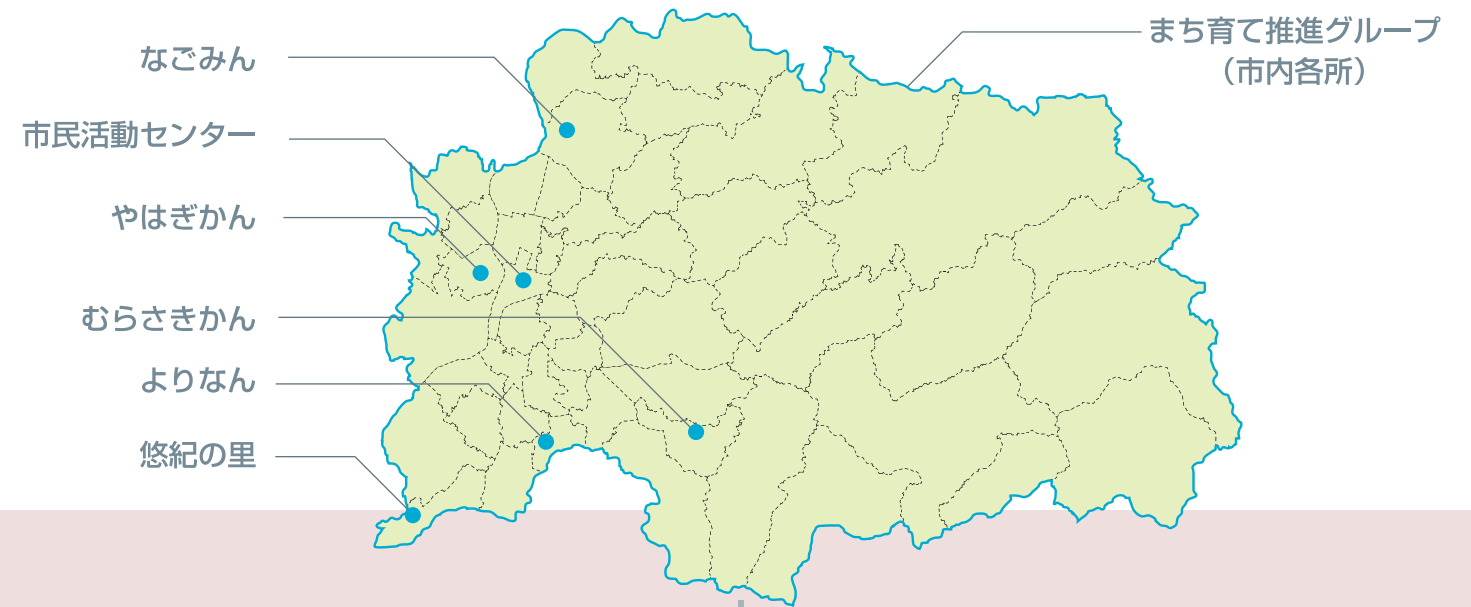
## マッチング

●市民活動の「ヒト」問題解決に向けてボランティアマッチングシステム「まちびとバンク」を運用し、61件の依頼件数に対応し、812名のマッチングが成立しました。

●市民活動の「モノ」不足解消に向けて「もののバンク」を運用し、不用品情報と必要な団体のマッチング、活動に必要な備品のレンタルを行いました。不用品は9品の受入れがあり7団体へのマッチングが成立。レンタルは7品の受入れがあり、9団体のマッチングが成立しました。

●地域交流センターの各事業においても団体の活動機会の提供や、団体の仲間を増やすべく、活動を周知のための発表機会を提供しました。

●りた事業自体にも多くのボランティアを受入れ、ボランティア希望者には活動機会を提供し、りたも運営を助られる、という双方にとって良い関係を築くことができました。運営ボランティア(H25:1,247名、1,900時間→H26:1,621名、4,015時間)の時間数が倍増し、コスト換算(愛知県最低賃金800円)すると、3,212,000円の役務の提供を受けたということになります。





なごみんカレッジの一コマ。特技を持った市民活動団体が、その技を共有

## 市民と共助のセンター運営

今年で10周年を迎えるなごみん。5つある地域交流センターの中でも受入ボランティア数は群を抜いています。また数だけでなく花咲ボランティアや情報誌作成ボランティアなど、自発性も持って積極的にセンター運営に関わってくれるボランティアも。

### ●なごみん横丁

マッチング



小中学生が自ら考えまちをつくるイベントを実施しました。創造性や共同性を養うと同時に、次世代のまちの担い手の育成につなげました。

### ●なごみんカレッジ

マッチング



市民活動団体が講師となり市民に写真の撮り方を教える「①テーブルフォト講座」と高校生を対象にボランティアの促進を図る「②ボランティア入門講座」を行いました。

### ●家族を守るための防災講座

防災



地元の婦人自主防災クラブを講師に招き、主婦目線で「家庭でできる防災・減災についての取組み」を紹介し、防災意識の向上を図りました。

### ●なごみんフェスタ

マッチング



活動団体の活動を来館者に体験してもらうことにより、活動促進の機会を提供しました。また、参加団体による実行委員会を立ち上げ、企画から市民の意見を取り入れました。

### ●花咲ボランティア

マッチング



地域ボランティアが中心となった敷地内の花壇整備や施設内の環境整備の活動をマネジメントし、地域ボランティアの受皿的役割になる団体としての自立を支援しました。

### ●岩津ゼミ支援

マッチング



地域振興を目的とした岩津ゼミの運営・広報に協力。また「なごみん手話講座」を開講し、岡崎響学校の生徒を講師に招き、地域と響学校をつなげる役割を担いました。



岡崎市では7年ぶりとなるNPOフォーラムを開催

## 公益活動を広げる・深めるお手伝い

岡崎市内の公益活動をさらに深め、広げることに注力しました。また中間支援者として、求められる市民活動支援ができるよう、ニーズ把握にも着手し、ボランティアニーズ調査や、NPOフォーラム、アンケートによる実態調査を実施しました。

### ●NPOフォーラム in 第4回岡崎まち育てフェスタ

マッチング



岡崎市内のNPO法人をメインターゲットに市内では7年ぶりとなるNPOフォーラムを実施し、NPOの現状把握と、中間支援者に求められるニーズ調査を行いました。



### ●公益活動支援

マッチング



公益活動促進のために、市民活動の登録相談やポータルサイト活用促進、公益活動書き方・考え方講座など、窓口で様々な相談に対応しました。

### ●まちびとバンク

マッチング



ボランティアしたい人としてほしい人をマッチングしました。今年から市民センターへも情報提供を行い、ボランティアのすそ野を広げられるよう努めました。

### ●ボランティアニーズ調査

マッチング



りぶらの一大イベントであるりぶらまつりに出展し、市民活動センターの利用を促すだけでなく、市民のボランティア意識調査を行いました。

### ●ものものバンク

マッチング



NPOが抱えるヒト・モノ・カネ問題をトータルで支援するべく、モノマッチングにも取り組んでいます。今年度も多数のマッチングが生まれました。



多数の方にご来館いただき盛況に終わった悠紀の里全館オープン記念イベント。多くの方に施設を周知できました。



老人クラブ交流会。今年は地元企業と協働し、有意義な交流ができました。

## 六ツ美の文化伝承、地域活性の期待

岡崎市の南西端に位置する六ツ美地域に2/15全館オープンした5館目となる地域交流センター。今年は大正天皇即位の大嘗祭(大正4年)で悠紀齋田としてお米を献上してから100年を迎えることもあり、地域の文化・歴史の伝承や市民活動・地域活動支援に期待が高まっています。

### ●オープニングイベント

マッチング

全館オープンを記念して盛大にオープニングイベントを開催しました。当日は地元有志、商工会、活動団体の方々にご協力いただき、盛大な催しとなりました。



## 多様な世代、多様な主体の交流を促す

利用者数、稼働率とも最多を誇るよりなん。例年に引き続き地域間、世代間の交流を促進するイベントを多数実施しました。中でも老人クラブ交流会では地域の課題解決という共通の目的意識のもと、企業とも連携しました。

### ●防災フェア

防災



周辺地域の防災意識を向上させるために体験ブースを設け「防災について考え体験する機会」を提供、開始前と終了後の参加者の防災への意識変化も調査しました。

### ●昔の遊び体験フェスタ

マッチング



昔のあそびを通じて、地域団体や地元高校生とともに世代間交流を促進し、顔の見える地域づくりへの意識を高める機会を創出しました。

### ●市民活動のための広報講座

マッチング



市民活動・地域活動団体の広報力を高めるべく、効果的なチラシ作成や、ウェブツールの使い方を習得する広報講座を開講しました。

### ●よりなん感謝祭

マッチング



市民活動団体を中心とし、ステージ発表、展示、体験、販売を通じて、日頃の成果発表を行い、団体の活動PRの場や公益活動の場をつくりあげました。

### ●老人クラブ交流会

福祉



上地学区老人クラブ連合会の活動報告および近隣事業所(企業)関係者を講師とした健康講座を実施し、学区のまちづくりにつながる活動や健康への意識向上を図りました。

### ●上地学区夏祭りへの参加

マッチング



地域団体が主催する行事に出店するとともに、地域貢献のボランティアの協力を促し、地域づくりの支援を行いました。



時間・場所別の被害を想定し、それぞれの場合の行動を考えるグループワーク

## 地域の歴史、防災力を啓発

地域の魅力を収集し、発信する「やはぎお宝マップ」の作成や、まち歩き、地域防災力向上のための実際の被害を想定した防災講座の実施など、市民が愛着を持って安心してこの地に暮らし続けられるよう、矢作地域ならではの課題解決と魅力発信に注力しました。

### ●やはぎ防災講座（水害編）

防災



矢作地域の土地の特性と水害のリスクを知り、事前にできること、災害時にすべきことを学び、地域住民、地域団体、市民団体の連携関係の強化を図りました。

### ●花のとう協賛イベント

景観



矢作の伝統祭事「花のとう」に協賛し、花のとうの歴史を紹介するかわら版の作成や、かつて風物詩だった花の苗販売の復興などを通じ、地域性の啓発・強化を行いました。

### ●防災学び合い交流会

マッチング



最新の被害想定や身近な防災訓練の先進事例を学び、被災後時系列に沿って自分/地域ですべきことについて能動的に考えるグループワークを行いました。

### ●7周年春まつり

マッチング



市民活動団体と地域との交流を深め、公益的な活動が活性化することを目指し、日頃の活動の成果発表を行いました。

### ●やはぎかん子どもの街

マッチング



「親子で学ぶ」をテーマに、矢作地域に愛着が持てるよう、市民活動団体、ボランティアが講師となり、世代を超えて受け継ぎたい知恵と技の継承と交流を図りました。

### ●やはぎお宝マップ

景観



地域情報を収集し、館内掲示や独自に編集した「やはぎお宝マップ」を通じて情報提供を行いました。



むらさきかんフェスタ。活動団体と市民との交流機会を提供しました。

## 地域のまちづくりを、地域とともに

前年に引き続き、地域資源を生かしたまちづくり支援に加え、地域福祉の担い手と連携した生活相談事業も実施しました。また、地域防災力の向上を目論んで幼児とその母親を対象としたテーマ性の高い講座を実施するなど、地域の問題解決力をトータルでサポートしました。

### ●むらさき麦まつり

景観



藤川宿とむらさき麦のPRにつながるよう、ウォークラリーや藤川小児童によるガイドを開催。館内では藤川に関わる個人や団体の展示や発表などを行いました。

### ●生活相談事業

福祉



社会福祉協議会や東部包括支援センターと連携し、むらさきかんと竜谷宮ノ入集会所で、市民にとって気軽に相談しやすい窓口の提供を行いました。

### ●幼児を守るための防災講座

防災



幼児対象のAED・心肺蘇生講習や災害時の子どものこころのケア、ダンスと歌でおぼえる防災知識など、親子で参加できる講座を開催しました。

### ●むらさきかんフェスタ

マッチング



むらさきかん全館を使い、主にむらさきかん利用団体の日頃の活動の成果発表と、市民との交流の場を提供しました。

### ●東部地域活動報告交流会

マッチング



東部地域において、地域の発展のために「まちづくり」「まちおこし」活動をしている市民団体に参加いただき、活動報告と懇親会を行いました。

### ●藤川・竜谷支援事業

マッチング



藤川は、米屋活用支援やむらさき麦事業支援、食育イベントを行い、竜谷は福祉系団体で構成されるネットワーク会議への出席や東部ケア会議へのサポートを行いました。